



## 遠くまでみつめよう

校長 田中 秋人

はじめに元日に発災した令和6年能登半島地震において、被災された方にお見舞い申し上げます。学校教育活動が安全に行えるように、今一度しっかりと確認しながら実践していきます。

さて新しい年を迎えられて皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の元旦は見事に晴れ上がり、遠くに富士山のきれいで雄大な姿を見ることができました。私は富士山の姿をみるだけで、その雄大な自然の強さを感じるとともに、なぜかほっとする気持ちを感じています。なぜ年末年始は富士山がよく見えるのか気になり、調べて見ました。すると気象庁のホームページにこのような記載を見つけました。



空気が濁っているか澄んでいるかは、空気中に含まれている水蒸気やちりなどが多いか少ないかによります。冬は夏に比べて気温も低く、対流活動も弱いことから空気中の水蒸気やちりなどが少なく、このため冬の空は夏の空より澄んで見えます。

気象庁「はれるんライブラリー」より

[https://www.jma.go.jp/jma/kids/kids/faq/a2\\_15.html](https://www.jma.go.jp/jma/kids/kids/faq/a2_15.html)

これを読み、冬の厳しい寒さが富士山の雄大な風景を、横浜にしながら感じさせてくれているだということを知りました。

話は変わりますが、昨年末にアラブ首長国連邦のドバイで COP28 が行われました。COP とは「気候変動枠組条約締約国会議」の略語で、「締約国」とは条約に署名した 198 カ国を指します。この 28 回目の会議が COP28 です。COP では様々な気候問題が取り上げていますが、中でも一番の関心事は温暖化対策だと言われています。世界気象機関 (WMO) によれば、世界の気温は 2023 年に世界各地で過去最高を記録し、今後 5 年間で新記録を更新すると示唆されています。まさに喫緊の課題と言えます。この会議の中で日本は、「化石賞」という賞を受賞しました。化石賞は、気候変動に取り組む 130 か国の 1800 を超える世界最大の NGO のネットワーク「CAN インターナショナル」が、気候変動対策を後退させる言動を行なった国に与える不名誉な賞です。この賞自体にも様々な賛否の意見がありますが、一つの物事を考えさせられる気持ちにさせられました。それは、地球温暖化対策のように何事もその場その時だけでなく、遠い未来を見据えて、今を考えていかなければならないということです。

学校現場においても、様々な事が起こります。そのときには教職員だけでなく、保護者の方、地域の方にも力をかり、協力して解決を図っています。子どもたちの一人ひとりの未来をよりよいものにしようという気持ちは誰ももっている同じ気持ちだと思います。舞岡の子どもが大人になるときの未来も考え、保護者や地域の方、教職員で協力してみんなで舞岡の子を竜(辰年)のように力強く育てていければと強く感じています。遠くの富士山をいつまでも見るためにも地球温暖化対策や SDGs を意識することと同じように、子どもの大人になったときの未来を考えていきたいと思っています。2024 年も昨年同様、変わらぬご指導、ご協力をお願いいたします。